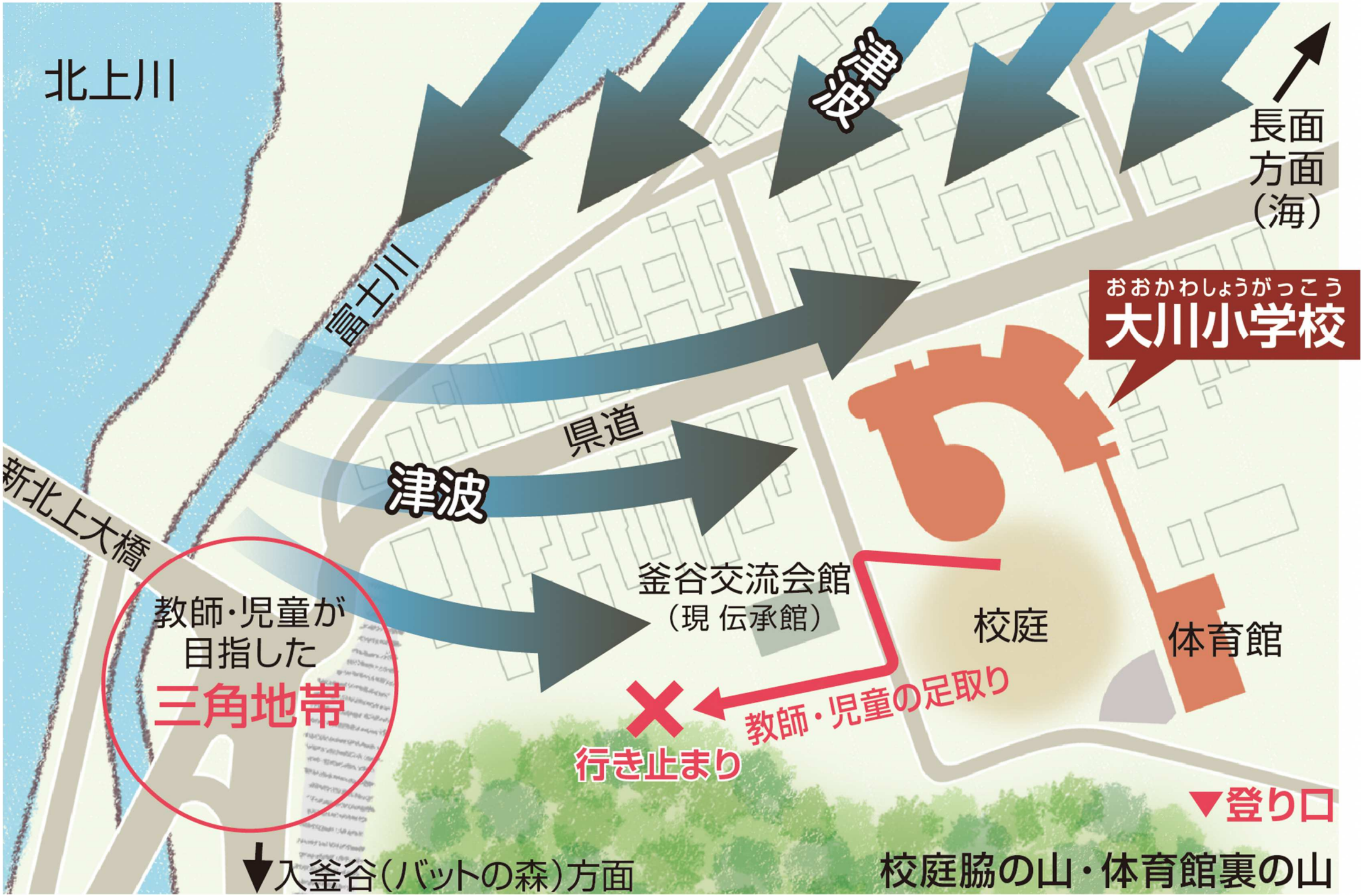
北上川
富士川
津波
長面
方面
（海）
おおかわしょうがっこう
大川小学校
県道
津波
新北上大橋
釜谷交流会館
（現 伝承館）
校庭
体育館
教師・児童が
目指した
三角地帯
教師・児童の足取り
行き止まり
▼登り口
入釜谷（バットの森）方面
校庭脇の山・体育館裏の山

14:46	**大地震発生（震度６）**
	机の下などで頭部を守る指示。その後校庭へ避難。
	校庭に出る際，先生は「山に逃げるからな」と児童に声をかけた。体育館脇のシイタケ栽培で使っていた山へ向かって，すぐに走り出した子もいたが，まず校庭に整列し，点呼。点呼終了までは５～ ６分。先生が校舎内の検索を行い，全員が確認できた。中庭を向いて整列，指揮台の上にラジオがあった。
14:49	**６ｍの大津波警報**
14:52	防災無線のサイレンが鳴り，６ｍの津波警報が伝えられた。高台への避難と海岸，河川へ近づかないよう繰り返し呼びかけ。サイレンはこの時しか鳴っていない。
	長面方面へ向かおうとしていたスクールバスは，玄関前でいつでも発車できるように待機し，学校の指示を待っていた。バス会社から避難するよう無線も入っていた。運転手が避難を進言するが，学校からの指示は「待機」。
15:00	１５時前後に迎えに来た保護者は，車内でラジオを聴き「６～７ｍの 保護者，津波が来るから，山へ逃げて」と進言。
	「１０ｍの津波が来る」というラジオからの情報。子どもも状況を察知し，「ここにいたら死ぬ」「山に逃げよう」と訴えた。
15:25	**市の広報車が「松原を越えて津波，高台へ避難」を呼びかけ通過。**
15:32	**富士川が越流**
	やがて流木やがれきが橋に堆積したため，堰き止められた津波が数分後に一気に溢れた。
15:36	三角地帯に向かって移動。 校庭から移動を開始したのは大津波がいよいよ迫って，川からはすでに水があふれていた時である。側溝からも水が吹き出ていた。一応上級生が先頭となっているが，整列する余裕などなく，列は乱れており，学年は入り交じっていた。子ども達を向かわせた民家の裏は私道で狭い上，行き止まりになっている。
15:37	**大川小に津波到達**
	川からあふれた津波の後，陸を遡上した津波も到達。両方が山にぶつかり，校庭で渦を巻いた。

植樹活動をしていたバットの森

校庭脇の斜面は崩れないように土留めしていた場所が４段ある。授業や写真撮影で使用。

体育館裏の斜面は傾斜が緩やか(９°)
３月にはシイタケ栽培の体験学習が行われていた。

校庭から自転車置き場脇の狭い（幅約70cm）通路を通って移動。

150m、１分間、津波の方向に、１列で移動

津波到達時間15:37

津波到達約２時間後

犠牲者数（2022.2現在）

児童74名（うち4名は不明）
教員10名

津波は、家、車、土砂、そして、海岸にあった数万本の松等を巻き込んで北上川を遡ってきた。
それらが新北上大橋に堆積し、水位が上昇。一気にあふれ出た。
流れをせき止めた分、津波は威力も波の高さも大きくなった。
橋は４分の１ほど流失、堤防も決壊。

その後、陸を遡上してきた津波も到達し、川からの津波とぶつかり、校庭で渦を巻いた。
校舎内の時計は、すべて15時37分で止まっている。